

JICAタイ事務所長  
兼 アジア地域支援事務所長

小野田 勝次  
Onoda Katsuji



アジア太平洋地域内のNGO・政府・国際機関の連携・ネットワークづくりを促進しているAPCDIは、各国に協力団体を有する。その一つ、パキスタンの協力団体NGO「STEP(Special Talent Exchange Program)」は、世界銀行と協力して同国でIRCD(Information and Resource Center on Disability)プロジェクトを実施。これはAPCDで研修を受けた障害のある元研修員が中心となって、障害者の情報アクセス改善やエンパワーメント、バリアフリーの促進を目指すもので、APCDの研修成果の好事例だ

## 実践! ★★★★★ 人間の安全保障

### 発展を下支えする 人々に光を

中進国への仲間入りを目指し、ASEAN地域共通の課題にも取り組むタイ。発展の陰に隠れる社会的弱者に光を当てようとJICAが実践する人間の安全保障とは。

A

ASEAN地域の中で一歩先の工業化に成功し、今や中進国入りを目指しているタイですが、華々しい発展の陰には、貧困層や障害者、子ども、高齢者、女性、少数民族といった社会的・経済的に弱い立場の人々が取り残されています。例えば、現在「アジア太平洋障害者センター(APCD)プロジェクト」を実施しています。これは健常者が障害者の自立を支えるという従来型ではなく、障害者同士でカウンセリングし合う「ピア・カウンセリング」という方法で、障害者のエンパワーメントを図ると同時に、社会をバリアフリー化しようというものです。

ある村で車いす生活を送る20歳の女性に出会いました。障害者は恥とみなされて彼女はずっと家に閉じ込め、社会から疎外されていました。あるとき、同じ車いすのティラユットさんが彼女を訪ね、社会参加を手助けしました。それがきっかけで、彼女は学校へ通い、卒業後、手工芸品販売で生計を立てるようになったのです。さらに今度は、その彼女が別の障害者の兄弟に自立を促したことで、兄弟は売店を営み、車いすの兄が注文取りを、脳障害を負った弟が宅配を担当して、地域社会で生活を送れるようになりました。それが地域の人々にとっても励みとなり、コミュニティ活性化にもつながったのです。

タイの生活自立センターで働くティラユットさんは、APCDプロジェクトで障害者リーダー研修を受けた一人で、地域のリーダー的存在にもなっています。研修では受講者より重度の障害者の人が講師になり、上から下ではなく、同じ立場の人、弱者同士が共に力を合わせていくことを重視しています。これはタイを中心に、アジア太平洋地域の各国でも同様に取り組んでいます。

また、経済のグローバル化とともに、人・モノ・カネの移動が自由になったことで、地域的格差が生まれ、人身取引の問題も拡大しています。タイの光の部分を支えているのは、周辺諸国からの不法労働者。200万人はいるといわれ、彼らは工事現場や工場、飲食店、メイドとして不当な低賃金で働かされています。輸出振興で工業化を進めたタイは、製品をより安く売するために低賃金労働者を求め、一方ラオス、カンボジア、ミャンマーなど周辺国の貧しい人たちはバンコクならより多くを稼げるとフローカーに甘い言葉で誘われ、出稼ぎに来て、実際は不当な扱いを受けるのです。

そうした人々を保護・収容する施設が国境沿いにいくつもありますが、人身取引の問題はタイ一國で解決できることはありません。国境を越えるこの問題は、ASEANが地域的に犯罪を防止し、被害者を保護・送還することが重要です。ASEANは地域の課題は共に解決しようという前提があるので、その体制も徐々にできつつあります。ただし、保護されて国に帰っても差別され、貧困が繰り返されることから、JICAはそこに目を向け、被害者に職業訓練を実施し、自立を支えるプロジェクトを現在形成しているところです。国の発展を下支えしているのは底辺の労働者であり、彼らにこそ発展の光が当たるように取り組むことがタイ事務所、アジア地域支援事務所が実践する特徴的な人間の安全保障です。

また、タイ政府自身も、東南アジアで唯一「Human Security Network(HSN)」に参加したり、2002年に社会開発・人間の安全保障省を設置するなどして、社会的弱者への公共福祉を充実させており、その取り組みにJICAも協力しています。

1999年にカナダやノルウェーを中心に設立された、人間の安全保障の概念を推進する国家のネットワーク。